

日々の祈り

2021年4月19日(月)~24日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・宮崎中部教会の新しい一年の歩みのために。この小さな群れが、聖霊に導かれ、御言葉に生かされ、イエスさまの救いの恵みを証しつつ、喜んで歩いていくことが出来るように。
- ・苦しみや困難、弱さや、痛みを覚えている兄弟姉妹に、癒しと慰めが豊かにあり、主の平安の内に日々を歩めるように。
- ・一人でも多くの方が、神の御許に立ち帰るように。

19日(月)

ルカによる福音書 13章 8~9節

園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。「今の時」は、わたしたちが神さまの裁きの御前に向かって歩いている時です。ですから今すぐにでも、わたしたちは自分の罪を認め、悔い改めるべき時であるとイエスさまは語られました。そして同時に、その「今の時」は、神さまが忍耐しておられ、わたしたちが立ち帰ることを期待し、望み、待つて下さっている時でもあるのです。わたしたちの悔い改めの実がなるために、神の御子イエスさまはあらゆる手を尽くし、ご自分の命をも注いで下さいます。

20日(火)

ローマの信徒への手紙 8章 26、34節

同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成して下さるからです。…だれがわたしたちを罪に定めることができましょう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成して下さるのです。

わたしたちには、執り成し手、弁護者がついていきます。わたしたちの悔い改めを忍耐強く待つて下さっている父に対して、わたしたちの言葉にならないうめきを執り成して下さる聖霊と、わたしたちの罪を贖って下さったイエスさまが、わたしたちを弁護し、執り成し、父の御許に立ち帰ることが出来るよう導いて下さっているのです。

21日(水)

ホセア書7章13節

なんと災いなことか。彼らはわたしから離れ去った。わたしに背いたから、彼らは滅びる。どんなに彼らを救おうとしても／彼らはわたしに偽って語る。

神さまは、わたしたちを何度も救おうとなさったのです。力を尽くし、思いを尽くし、わたしたちを愛し尽くして、救いの御手を伸ばして下さったのです。その手を振り払うのはわたしたちです。背き、偽りを語るのはわたしたちです。しかし、神さまはわたしたちを諦めることはなさいませんでした。それでもわたしたちを罪から救い出すために、神さまは独り子イエスさまを遣わされたのです。イエスさまこそ、神さまの愛と憐れみそのものです。

22日(木)

コロサイの信徒への手紙1章9~10節

こういうわけで、そのことを聞いたときから、わたしたちは、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、「霊」によるあらゆる知恵と理解によって、神の御心を十分悟り、すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。

わたしたちもまた、「霊」によるあらゆる知識と理解によって、神の御心を十分に悟ることが出来るように祈り求めたいのです。わたしたちは、「人」の知恵や理解によって、本当に見つめるべきことを見ず、神さまの御心を覆い隠し、神さまを悲しませる歩みをしています。聖霊によって、わたしたちが神さまの良いご計画をこそ見つけ、望んでおられることを知り、神さまに喜ばれるように歩むことが出来ますように。

23日(金)

申命記5章15節

あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。

次の主日礼拝の御言葉です。安息日、神さまは、イスラエルの民が奴隷の家から解放された救いを思い起こす日、そして、わたしたちが神さまの救いの恵みを思い起こす日として備えて下さいました。安息日に示された、神さまの深い愛と憐れみの御心を、わたしたちはいつも覚えていきたいのです。

24日(土)

ルカによる福音書13章16節

この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

明日の主日礼拝の御言葉です。安息日にイエスさまがある女性を病から解放された時、会堂長は安息日に病人を癒すのはしてはならないきまりだと言って、腹を立てました。しかし、神さまは御自分の愛する者たちを憐れみ、癒し、解放して下さるお方であり、安息日は、この神さまとの交わりの礼拝の内に、わたしたちが救いの御業を思い起こし、恵みを覚え、新しく生かされる日です。神の御子イエスさまは、この時、神さまの御心を行なわれたのです。